

総務産業委員会報告書

平成26年7月15日

備前市議会議長 田 口 健 作 殿

委員長 田 原 隆 雄

平成26年7月15日に委員会を開催し、次のとおり議決したので議事録を添えて報告する。

記

案 件	審査結果	備 考
1 定住対策及び公共交通についての調査研究 ① 公共交通について	継続調査	—
2 企業立地についての調査研究 ① 企業誘致について	継続調査	—
3 観光及び公園についての調査研究 ① 観光について	継続調査	—

<報告事項>

- 過疎地域自立促進計画の変更について（企画政策課）
- 全国アマモサミットについて（産業振興課）
- 備前焼まつりの日程について（まち営業課）
- 定住推進に関するフェイスブック開設について（まち営業課）
- 伊部・浦伊部土地区画整理事業のアンケート調査について（まち計画課）
- 寒河地内の水道管漏水事故について（水道課）

《 委員会記録目次 》

招集日時・出席委員等	1
開会	2
報告事項	2
所管事務調査	11
閉会	29

総務産業委員会記録

招集日時	平成26年7月15日（火）		午前9時30分	
開議・閉議	午前9時32分	開会　～	午前11時58分	閉会
場所・形態	委員会室A・B	閉会中の開催		
出席委員	委員長	田原隆雄	副委員長	川崎輝通
	委員	山本恒道		尾川直行
		掛谷　繁		西上徳一
		山本　成		
欠席委員	なし			
遅参委員	山本恒道			
早退委員	なし			
列席者等	議長	田口健作		
傍聴者	議員	守井秀龍	立川　茂	石原和人
		星野和也		
	報道	なし		
	一般	なし		
説明員	まちづくり部長	高橋昌弘	政策監	植田明彦
	日生総合支所長	星尾靖行	産業振興課長	丸尾勇司
	まち営業課長	下山　晃	まち整備課長	坂本基道
	まち計画課長	平田惣己治	水道課長	梶藤　勲
	企画政策課長	中野新吾		
審査記録	次のとおり			

午前9時32分 開会

○田原委員長 皆さん、おはようございます。

定刻になりましたので、総務産業委員会を開会いたします。

山本委員、後ほど参加ということで、定足数に達しておりますので、ただいまから始めたいと思います。

きょうの委員会の進め方ですが、まず所管事務調査に入る前に報告事項が多数あります。関連もありますので、まず報告事項をしていただいて、所管事務調査以外の説明員は退席と、その後所管事務調査に入らせていただくということにしたいと思いますが、それでよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それから、きょうは8月5日に次回の委員会を予定させていただいておりますが、議会報告会のテーマを中心とした調査を予定しておりますが、そういうようなことについてもその他の項で協議させていただきたいと思いますので、よろしく願いいたしたいと思います。

***** 報告事項 *****

それでは、報告事項から入ります。

○中野企画政策課長 企画政策課から過疎地域自立促進計画の変更について、1点御報告させていただきます。

さきの委員会で報告させていただきましたが、9月定例会への提案に向けて作業を行っております。9月定例会への提案から逆算いたしますと、7月22日はパブリックコメントにかける必要があります。もう既にこのことにつきましては、広報でもお知らせをしております。それに合わせるべく現在大詰めの段階でありまして、素案につきましては、あすの庁議を経て決定ということになってまいります。素案ができ次第、議会へその写しをお配りいたしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○丸尾産業振興課長 産業振興課より全国アマモサミットについて報告をさせていただきます。

このアマモについてですが、アマモは海草と呼ばれる植物で、多くの魚介類の産卵、育成の場となることから、海の揺りかごと呼ばれております。このアマモ場は、物質環境を促進し、海底環境の改善のほか二酸化炭素を吸収し、酸素をつくり出すための地球温暖化防止にも役立っております。そのアマモが、日生町において昭和20年代には590ヘクタールあったものが埋め立てや水質汚濁により昭和60年には12ヘクタールまで減少をしております。このことから、日生町漁協が昭和60年より約30年にわたり、アマモ場の造成活動に取り組み、現在200ヘクタール以上の回復を行っております。こうしたアマモ場の再生に活動する方々が集い、消滅したアマモ場の復活とアマモによる海の可能性を核としたシンポジウムを行っておりますのが全国アマモサミットでございます。

このシンポジウムは平成20年から始まり、ことしが7回目で今回青森市で行われます。来年は熊本県で行われる予定です。参考資料として、昨年宮城県塩竈市で行われました全国アマモサミットのパンフレットと協力いただいた関係団体を添付させていただいております。この全国ア

マモサミットを日生町漁協が平成28年度に開催招致したいとの意向を持っております。また、塩竈市で行われたシンポジウムには、日生町漁協、日生中学校の生徒が参加し、アマモについての発表を行っております。まだ正式に決定はしておりませんが、決定した場合には各方面の方々の協力が必要にならうかと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○下山まち営業課長 1点目でございますが、ことしの備前焼まつり、第1回の実行委員会が先日開催されまして、開催日が10月18日（土）と19日（日）に決定いたしました。

2点目でございますが、備前市の定住推進ということで、新たにそれ専用のフェイスブックを7月より立ち上げまして、運用しております。まち営業課といたしましては、3つ目の情報発信ということで発信内容が異なりますことから、別々に運用をしております。定住推進につきましては、私も先日6日に東京で開催されましたおかやま交流・定住フェアに参加して感じましたが、8割以上の方がインターネットを利用して情報を収集しているという結果も出ております。これを生かすためにも、やはりこれを活用するという有料広告というのにも必要になってくるということで、有料広告ということになりますと予算が伴いますので、次回議会に補正の対応をさせていただければと考えております。

○梶藤水道課長 水道課より備前市日生町寒河地内の水道管漏水事故について報告いたします。

この事故は、平成26年6月29日の日曜日に発生しました。発生場所は、備前市日生町寒河地内、浜山運動公園の川を挟んで西側の国道250号と赤徳線が交差する地点です。発生後の対応として、午前10時過ぎから国道の掘削作業を開始し、午後5時に管路の接続を終了し、通水を開始しました。その間、12時に断水放送、午後3時に給水所の設置の放送、5時に管路の接続を完了した放送をしております。また、4時過ぎからひなビジョンでのテロップを流しております。職員の作業としましては、午後8時に給水所を撤収し、午後10時25分ごろ、管路の洗管作業を終了し、撤収しております。断水の範囲としましては、浜山地区、寒河東地区、寒河西地区、寒河中地区、大西、深谷の計964件であります。断水後の対応として、断水時、洗管作業等、住民の皆様にも行っていただいておりますので、減免等の措置を考えております。給水の対応としまして、給水車での対応を行いました。その間、住民の方が約50組来られました。

原因といたしましては、経年劣化と振動により水道管の口径200ミリの架設管路の取り出し部分にひずみが生じたこととあります。今後の対策といたしまして、漏水管の更新を計画的に進めていき、事故等のない安定給水を目指してまいります。また、危機管理課としっかり連携して、住民への十分な広報、給水活動に努めてまいります。

○平田まち計画課長 前回、6月定例会中の委員会の中で一度御報告をさせていただいておりますが、伊部・浦伊部土地区画整理事業のアンケート調査につきまして、前回の御報告の際には資料をお配りしておりませんでしたので、今回改めて資料をつくってお配りをした上で、この資料の内容について御説明をさせていただきたいと思っております。

まず、資料の一番上につけている紙ですが、これはちょっとアンケートとは別でございますので、こちらのほうでこの土地区画整理事業のこれまでの経緯、経過等、それから次のページには

当初の計画、それから平成10年に一度見直しの計画案をつくっております、この際の事業規模、事業費といったものについて整理をしたものでございます。

2枚目からアンケート調査の結果ということになっております。

3ページ目の(2)調査の概要ですが、ここにありますように区域内の全地権者の方319名おられまして、このうち305名の方に対しましてアンケート調査を発送させていただいております。実際に回収できたのが140通ということで、回収率が45.9%となっております。

同じページの一番下、6の調査項目というところに一覧表がありますが、16項目について調査させていただいております。数が多く時間の関係で一部省略をさせていただきまして、特にこの事業に関係のある重要な部分だけを抜粋で御説明させていただきたいと思っております。

3)地区の将来像、今後の土地利用の意向、(1)望まれる土地の将来像、問(8)あなたは、当地区がどのようなまちになれば良いと思いませんかという設問に対しまして、「住宅地と商店・スーパーなどが調和した便利なまち」という回答が32.1%と最も多く、次いで「現状のままでよい」が20.7%、「工場や企業等が多く立地する産業活動の活発なまち」が11.4%、「整然とした街なみの低層住宅」が10%と続いております。現状のままでよいというお答えが2割ほどあるわけですが、その一方で大半はやはり何らかの形で宅地化をして、まちづくりを進めてほしいというお答えが多いという結果になっております。

続きまして、問(9)あなたが所有している土地について、今後どのように利用しようと考えていますかという設問に対しまして、「今の利用を継続したい」が57.1%と約6割を占めております。次いで、「売りたい」が25%、「わからない」が12.9%、「貸したい」が7.9%と続いております。今の土地利用を継続したいというお答えが57.1%と非常に多いわけですが、これは既に宅地化をされて家屋が建っている部分も結構ございますので、特にそれも不老川から北の区域、備前中学校の周辺などでは宅地化が進んでおりますから、こういったとこの地権者の方につきましては、やはり家があるので、今のまま継続をしたいというお答えが多くなっているということでこういった偏った回答の傾向になっているのではないかと考えられます。

続きまして、問(13)当地区に、特に整備が必要だと思われる公共施設は、以下のうちどれだと思いますかという設問に対しまして、「生活に密着した生活道路」が40.7%と最も多く、次いで「歩道がある幹線道路」が29.3%、「特に整備するものはない」が20%、「公園・緑地・広場」が19.3%、「河川・用排水路」が15.7%、「下水道」が13.6%、「上水道」が13.5%となっております、これも特に整備をするものはないと、整備は不要だというお答えも2割ほどありますが、大半はやはり道路、河川、公園、上下水といったような公共施設の整備を望まれる要望が非常に多いという結果になっております。

続きまして、問(14)当地区に、必要な公共施設を整備する整備手法は、以下のうちどれが良いと思いませんかという設問に対しまして、「当地区全体の区画整理事業を実施し、総合的な整備」が30.7%と最も多く、次いで「規制を維持すべき区域や緩和すべき区域を定め、部分的に区画整理事業による整備」が21.4%、「特に整備の必要性を感じない」が15.7%、

「道路、公園、上下水道等の施設別に必要が生じた箇所から整備」が13.6%といった結果になっております。ここでも、やはり必要性を感じないというお答えが15.7%ほどありますが、大部分の方は何らかの手法で整備をしてほしいと望んでおられるという結果が出ております。

問（15）仮に土地区画整理事業を推進するとしたら、あなたは事業に何を希望しますかという設問に対しまして、「区域を縮小し、可能なところから早期に実施」が34.3%と最も多く、次いで「土地の規模を概ね維持」が22.1%、「わからない」が22.1%、「建物が移転しないなど、個々の土地の再配置案の位置、形状を変更」が12.8%、「所有する土地を区域外にして欲しい」が8.6%という結果になっております。この中で、特に区域を縮小してでも可能なところから早期に実施してほしいというお答えが34.3%ということで3分の1ほどありますが、その一方で土地の規模をおおむね維持してほしいといったようなお答えは、これは減歩率が当初の計画では高いので下げてほしいという意味合いだと思われまじし、それからまた建物が現在あるところでは、それを移転しないような計画変更をしてほしいといったようなこと、それから道路、公園等の整備計画についても配置を変更してほしいといったようなお答えなど、今後事業を考えていく上で非常に課題となるようなお答えをたくさんいただいているといったような結果になっております。

最後に、自由意見としまして、問（16）土地区画整理事業に関することについて、御自由に御意見をお書きくださいという設問に対しまして、区画整理への反対という御意見が5.7%、区画整理事業の見直しを求める御意見が5.7%、それから区画整理事業の情報等がないので、情報提供してほしいといったようなお答えが5.7%、それからまちづくりに対する御意見が5.7%、区画整理を早期に実施してほしいといったお答えが5%と、その他さまざまな御意見をいただいております。

最後に、（9）地域別のまとめということで、このアンケートの結果を見ますと、整備を望んでおられる声もたくさんありますが、その一方で必要がないといった御意見もあるということで、これは同じ計画区域内であっても、地区によってかなり意識に格差があるのかなというふうに感じております。そういったまとめをその部分に書き込んでおります。

読みますが、原南、田井山及び備前中東町地域では、道路や河川等の公共施設の整備が比較的進んでいることから、住環境の満足度が高く、現在の土地利用の継続を考える方が多い。その他の地域と比較して、必要な公共施設への設問に対して「特に整備するものはない」の回答が多く、かつ必要な公共施設の整備手法としても、「特に整備の必要性を感じない」の回答が多い。今後、施行区域の変更や都市計画道路等の公共施設の配置変更も視野に入れた設計図の見直しが必要な地域であることがうかがえる。

浦南及び浦北地域では、道路等の公共施設の整備のおくれからか、住環境の満足度が低いが、現在の土地利用について他の利用への変更を考える方は多くない。公共施設の整備は、調査地区全体または区域を縮小してでも区画整理事業による要望が多い。浦北地域では、区画整理事業の

認知度が特に高く、関心度が高いことがうかがえるといったようなことで、やはり地区ごとによって、その意識にかなり差異が大きいという結果があらわれておりますので、こうしたことも踏まえて今後事業を検討していきたいと考えております。

アンケート結果については以上でございますが、次のページからはアンケート調査とは別に社会動向の推計とか分析といった調査を行っております。これも、大まかに説明をさせていただきたいと思っております。

最初のページは、人口・世帯数の調査ということで真ん中のグラフを見ていただきますと、市全体の傾向としまして、平成10年度から比べますと、24年度現在でやはり人口がかなり減少してきているということで、市全体で10年度に対しまして24年度が84.8%、伊部地区が93.6%と減少傾向ですが、この計画区域だけに関して言えば、10年度から4倍ぐらいに人口が増加しているという結果があらわれております。これは、もともと農地が多かったところへ宅地化が進んでいるということで、特に集合住宅なども多く建っているようでございますし、たまたまこの地区、特に不老川から北の中学校周辺部分が宅地化が進んで人口が集中した結果がこういった結果になっているものと思われまます。

それから、将来の推計ですけれども、備前市における平成28年の推計人口の平均値は約3万5,300人と予想され、計画目標人口と比較して約2,700人の差が生じているということで、この計画目標人口といいますのは、総合計画の中で設定をしている目標で、3万8,000人という人口目標を設定しております。これからすると、将来の推計では2,700人ほど少なくなるという結果が出ておりますので、こうした人口の減少も踏まえた上で計画の精査をする必要があるということでございます。

次に、世帯数ということで、これも真ん中にグラフがございまして、先ほどの人口とはまたちよっと傾向が違ってございまして、若干増加という傾向がございまして、市全体で109%、伊部地区で105.7%、調査地区で521%ということで、人口減少は進んではいるんですけども、逆に核家族化が進んでいるということがこうした世帯数の増加という傾向になっているものと思われまます。

次は、地価動向でございまして、次のページの一番上にグラフがあります。これも国全体の傾向でございまして、やはり年々右肩下がりで地価は下がってきているという状況がございまして、これも平成10年度と比べて、30年度には住宅地及び工業地の地価がおおむね半額になるということが予想されます。商業地などでは、約4割になるということが予想されております。地価が下がってくるとどうなるかといいますと、このページで分析という部分に少し書いておりますが、仮に価格指数推計を平成10年の基本計画に反映させると、約25億円の事業費不足が考えられるということで、土地区画整理事業は減歩という制度を用いて地権者の方から土地を出し合っていて、その一部を売却して事業資金に充てるというやり方をとっておりますから、地価が下がるということになれば、当然その部分で事業費、資金の不足をするということが課題となってきます。

続きまして、次のページで建物件数でございますが、真ん中あたりのグラフを見ていただき、1つ緑の線が右肩下がりになっているのがあります。これがこの調査区域内の建物の件数の変化ですが、平成10年から比べますと約9割減少しているという状況がございます。これ建物の件数というか、建築確認の件数ということでございまして、幾らか新築の家屋はありますが、非常に件数が減少していると、これはやはり人口減少というものが一つの要因としてあろうかと思っておりますが、その一方でこの区画整理の区域内につきましては、都市計画道路の線などが走っておりますし、区域内ということで建築について非常に制限がかかっております。そうしたことが要因で、建築と開発が進まないということの要因になっているものと思われまます。ただ、不老川の北の部分、中学校周辺につきましては、そういった中でも徐々に宅地化が進んでいるという傾向がありますので、この建築の件数が減っているというのは、特に不老川から南の部分、農地が中心の部分についてそういう傾向が強いのではないかと思います。

それから、土地利用でございますが、真ん中あたりに土地の利用の状況のグラフがございます。これは、もう平成10年度からこっち、余り大きな変化はございませんが、宅地化が微増ということで少しふえているかなといったような状況になっております。そのページの下の分析のところですが、これをちょっと読みます。

備前市の平成28年計画目標人口3万8,000人と平成28年の推計人口3万5,300人の差、2,700人を調査地区内で収容する区域を仮に事業化するとした場合、必要開発面積は約33ヘクタールと考えられる。調査地区約62ヘクタールと比較すると大きな誤差があるため、事業区域の変更も視野に入れた土地利用計画の見直しが必要と考えられるということで、実際にこの計画区域だけで備前市全体の人口の差異を埋めるというのは、少し無理があるかもしれませんが、事業の必要な区域、面積の考え方の一つの目安としてこういう考え方をしております。最大でも33ヘクタールあれば足りるのではないかとということですので、当初計画の62ヘクタールは、これは現状では区域が広過ぎるのではないかとという結果でございます。

続きまして、次のページ、公共施設の現状でございます。これも一番上から少し読ませていただきます。

調査地区の公共用地率は土地利用現況より14.6%であるが、平成11年3月報告書にある河川約2.6ヘクタールを除くと公共用地率は10.4%となる。標準的な住宅地の公共用地率25%と比較して著しく低い。道路延長率は136m/haであり、標準的な住宅地の道路延長率250m/haと比較して著しく低い。延長に換算すると約7キロメートル不足しているということで、これも土地区画整理事業の区域内ということで、事業が休止をしていることによってなかなか公共施設の整備が進んでいないという状況をあらわしたものかと思っております。

大体以上ですが、最後のページでまとめをしております。今回の調査で今お話ししたようにいろいろと課題が出てきております。それをまとめたものがこのページのものでございまして、中段あたりに四角で囲みをつくって今後の検討課題ということで3点上げております。

まず1番、市街化の進行状況や住民の合意形成を考慮した事業区域及び都市計画用途地域の変

更検討ということで、やはり区域内の地区ごとに宅地化ですとか、土地利用の状況がかなり違っているということと地権者の方の意識が違いがあるということ、そういったことを踏まえて事業区域等、見直しを考えていく必要があるということでございます。

それから2番、都市計画道路の見直しも含めた道路、河川等の公共施設整備の変更検討ということで、区域内では公共施設の整備がかなり立ちおくれて不足しているという状況がございますが、かかる事業費が非常に大きくなるということで、当初計画どおりに進めるのは難しいのではないかと現状がございます。そういったことを踏まえて、見直しをしていく必要があろうかということでございます。

3番、事業費不足に伴う土地区画整理事業フレームの見直しということで、地価の下落に伴って事業資金が不足するといったような結果が出ておりますし、区域の面積も当初計画どおりのものが果たして必要かという課題が出ております。さらに、現在の財政状況が非常に厳しいということも踏まえまして、この当初の計画の区域を縮小するですとかあるいは別の整備手法を考えるとかといったようなことで、今後この地区の整備をどうするか、そういったことについての方針を検討していく必要があろうかと思えます。

○田原委員長 報告事項をお願いいたしました、土地区画整理事業につきましては、閉会中の審査で別途取り組みたいと思っておりますので、その辺も含めて今の報告事項につきまして、せっかくの機会ですので若干の質疑を求めたいと思っておりますが、委員の皆さんからどうぞ。

何課の何ということで、お願いできたらと思っております。

○尾川委員 まち営業課で有料広告のことについて、もうちょっと具体的に説明してください。

○下山まち営業課長 有料広告でございますが、フェイスブックに上げさせていただきたいと思っております。といいますのが、フェイスブックは、今SNSの中では外国も含めて一番登録ユーザーが多いと。多分使われる方は御存じかと思っておりますが、その中の右端にいるんな広告があります。そういうところにタイムリーに出していこうと。男性、女性の性別だとか今お住まいになっている住所、それからその方が見ている、どういうものに興味があるかというようなアルゴリズムをフェイスブックのほうを持っておりまして、それに私どもが年齢的なものとか地域だとか、今関西よりも関東のほうで定住のほうで非常に活発に動かれているということで、関東をターゲットにするとかという部分で、絞り込んでそういう広告をアップしていくと。それを見た方が、その方のお友達ですね、友達にもそれが出ていくという格好で拡散し、非常に効果があるんじゃないかということで、ある自治体がやって、12月ごろから3月ぐらいまでの学校の関係だとか就職の関係だとかという部分での、そのときが非常にタイムリーだという調査結果も出ていますのでございまして、私どもも新たに、岡山県はやっているところがないわけですが、始めたいというふうに考えておりまして、今資料等も含めまして検討している段階でございます。

○尾川委員 ということは、有期でやるということですか。

○下山まち営業課長 今のところ、ターゲットとしましては、11月から3月ぐらいまでの期間を検討しておりますが、予算等のこともございまして、最低でも3カ月はいろんな部分で、それ

から今度見た後の検証が非常にできるんですよ。どういうところから見た人が多いだとかという部分の今後の検討課題にもなるかなというふうに考えております。

○尾川委員 ちなみに、3カ月間でどのぐらいの費用がかかるんですか。

○下山まち営業課長 今3カ月の見積もりをとったばかりで、やっと来たのが現状でございます。3カ月で約30万円と消費税ぐらいかかるというふうにお聞きしております。

○尾川委員 他の自治体はやっとなですか。今、ある自治体というような話があったけど、岡山県内でやっとなですか。

○下山まち営業課長 岡山県内でやっているところは聞いておりません。今私が把握しておるのは、全国で5団体ぐらいやっていると、定住に向けての部分でございます。ただ、定住以外の関係でフェイスブックで有料でやっているというところは、たくさんございます。

○尾川委員 ちなみに、定住で5団体の名前を具体的に教えてもらえる。

○下山まち営業課長 今資料としてはございません。といいますのが、今見積もりをとった業者にお聞きしますと、5団体ほどあるというふうにお聞きしておりますので、もし必要であれば別途調べまして、お知らせいたしますが。

○尾川委員 後から教えてください。

○田原委員長 ほかに。

○掛谷委員 寒河地区での水道管の老朽化の漏水事故ですが、最終的には老朽化の予防ということは今後もやっていきたいという話、何年前も寒河地区の前の西崎議員の近くであったと思えますけど、下水道だな、ごめんなさい。こういった予防的なことが本当にできるのかどうか、調査が。どのように計画を立てて本当にやろうとしているのかをお聞きしたい。

○梶藤水道課長 委員おっしゃられるとおり、完全に予防的な対策ができるかといったら、難しいと思います。水道課といたしましては、重要な路線を一応定め、それを集中的に更新していくという形を基本路線で置いております。その他の路線につきましては、事後対応という形が非常に出てくると思いますが、今回下水道の支障移転等におきまして更新も進んでおりますので、その辺も含めて更新は進めていこうと考えております。

○掛谷委員 重要なところという話がありましたが、今の重要なところというのは把握されているのかどうか。古いところですから日生町とか吉永町のほうでしょうけれども、その辺はどうなっているのでしょうか。

○梶藤水道課長 重要な場所というか、路線を一応選定しております。基本的には、配水池に送るメインの管で、あと病院等につながるような管を重要な管として選定しております。

○掛谷委員 今言われた病院とかがメインの管ですから、日生じゃ吉永じゃあ旧備前市ということではないんですよね、もう備前市全体なのか。ある程度老朽化が激しいところを早くやっているところとか、工事のやり方もありましようし、その辺地域の差というのがあったりしますか。

○梶藤水道課長 管路の布設年に応じて、ある程度の計画を立てて進めております。現在におきましては、大内、香登本のあたりの送水管の計画を進めております。大きい部分については、管

路についてはそれです。あと、八木山地区とかについても計画を進めております。

○田原委員長 ちょっと関連の質問をしたいので、委員長をかわっていただきます。

〔委員長交代〕

○川崎副委員長 それでは、委員長をかわります。

○田原委員長 水道の断水の件ですが、当日放送設備が大変悪くて、寒河地区に十分伝わってなかったという点、それから給水をやってくれたようですが、それが運動公園近くだけで、50組利用されたということですけども、もう少し広く何カ所かへ給水する心配りが必要でなかったかというようなこと。最後に危機管理課との話も触れましたけども、危機管理課にこういうような断水の場合のマニュアルというのが十分整備されておるのかというようなことについて、地区の住民の方から問い合わせがありましたので、そのあたり少し説明をお願いしたいと思います。

○梶藤水道課長 放送設備につきましては、私どもの把握が不足しており、一部スピーカーから声が聞こえにくいとかというのを後でお聞きしました。それを受けまして、やはり放送設備がある部分についても、私どもの公用車での広報活動というのはしていかないといけないなというように認識しております。

給水所につきましては、おっしゃられるとおりの程度広範囲でありましたので、もっと給水所の設置というのはふやすべきであったというふうに考えております。

危機管理課での断水のマニュアルという話がありましたが、断水についてのマニュアルについては、危機管理課にはありません。水道課では、水道事故に対するマニュアルというのがありまして、それに基づいて対応というのを行っております。あと、私どもも住民の皆様からいろいろお話を伺った中で、一部住民の方から、自分自身はペットボトル等の十分買い置きがあると、皆さんもそういうふうな買い置きをしてくれたらええんだけど、自分とこの親とかはそういう買い置きもしていないと、給水所も遠かったらなかなかとりに行けないというようなことも伺いました。水道課も含め、市で十分な対応ができれば一番いいのですが、今後よく言われる自助、共助という形での対応も幾らかは考えていただければ、当座の対応というのはしていただけるのかなと考えております。

○田原委員長 要するに、危機管理課だろうが水道課だろうが、市民は関係ないわけですね。私たちは議員という形で問い合わせがあったりしますし、職員についても市役所という、市はという形でやはり苦情なり問い合わせがあるもんですから、その辺は危機管理課とよく話をされて、住民からの問い合わせなり苦情についてちゃんと対応できるマニュアルをぜひ危機管理課と協議をしてください。やはり、台風、その他停電等についての場合の断水も、今回は水道だけだったと思いますが、その辺もあるわけですから、住民の方からの苦情ももっとも思いましたので、そのあたりちゃんと対応をしてほしいと思います。これは要望です。

もう一つ、減免という話がありましたが、そのつかみ方はどういようにするんですか。

○梶藤水道課長 減免につきましては、断水エリアを特定しております。そのエリアについて、1立米の水量について減免をさせていただきます。

○田原委員長 一括、各戸に1立米ということですか。

○梶藤水道課長 一契約につき、1立米ということですか。

○田原委員長 わかりました。ありがとうございました。

〔委員長交代〕

それでは、委員長職を継続します。

そのほか、報告事項についての質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、これで報告事項については終わります。

暫時休憩をいたします。

午前10時17分 休憩

午前10時28分 再開

○田原委員長 休憩前に引き続きまして、会議を再開します。

閉会中の継続審査事件についての調査研究に入りますが、レジュメの1、2、3とありますが、3観光及び公園についての調査研究、水産課長の都合もありますのでそれを先に、観光についてですが関連がありますので、3から先にさせていただきたいと思います。

***** 観光及び公園についての調査研究 *****

観光についてですが、お手元へ資料を配らせていただいておりますが、これについての質疑もぜひ進めたいと思いますので、まず課長から備前市の観光についてのコンセプトといいますか、基本方針というか、こういうような形で観光に取り組みたいと、その辺のことについてお尋ねをしていきたいと思います。

○下山まち営業課長 委員長から基本方針ということでございますが、まず観光といたしましては、市長がいつも言われるように、観光はまちづくりだと、それが一番大きなコンセプトでございます。

そのまちづくりに当たりまして、市内の方、住民の方のおもてなしを披露する場が観光地だというふうに大きく捉えております。まちづくりをするためにどうするかということで、皆様、期待を持ってこられる観光客のおもてなしをすると、それで備前市のいいところを見ていただくということになってくるのではないかと思います。だから、大きなもので申しますと、先ほど言いましたように、観光はまちづくりというコンセプトで備前市は頑張っているというふうに思っております。

○田原委員長 委員の皆さん方から観光について御意見なり質疑等も含めまして、御意見等ございましたらどなたからでもどうぞ。

○掛谷委員 御存じのように山陽新聞に瀬戸内市のセットちゃん、市誕生10周年PRへ変身というふうな記事が載っておりました。私もゆるキャラ、ゆるキャラは緩いわけですから、かわいらしいというふうなイメージで全国のそういうサミットも行っております。以前、議会でも取り上げましたけれども、びぜこちゃんとかイノシシのいろいろあるようですが、特段には備前市としてのゆるキャラ等は考えていないという答弁があったということを私は覚えております。同

じことをまねせえというわけではないですけれども、やはりくまモンとかふなっしーとか、本当にすごく爆発的になったときには、PR効果は大きいわけです。

そこで、本当にこういうものはもう市の方針としては、全然考えてないのか、もうやる気もないし、現状でいいと、もうそういうことになっているのかどうか、お尋ねします。

○下山まち営業課長 キャラクターのことです。先ほど言われました備前市中南米美術館のペッカーですね。ああいうのがあるかと思います。私、昨年10月から観光のほうを担当させていただいておりますが、以前にもそういうお答えをしたというふうに記憶しております。これからどうするのかという意見でございますが、今のところキャラクターマスコットは考えておりません。そのかわり、先月の委員会でも申し上げましたとおり、観光大使ということでちょっと備前市は変わった観光大使を設けていこうということで、公募をすると。その中には、特別観光大使は別といたしまして、市民の方、市外の方、それから団体、キャラクターも含みますよということで広くこれから募集をしていく予定で今準備しておるわけでございますが、そういう部分でしっかり打っていこうかなど。キャラクターにいたしましても、やはり乱立して今からというのはいかがなものかなというふうに考える部分がございますので、そういう変わった部分で備前市はPRをしていこうと考えております。

○掛谷委員 それも結構でございます。ですから、キャラクターについても、観光大使とか、いろんな公募の中で考えていきたいということですので、そういう方向はあるという認識でいいのでしょうか。

○下山まち営業課長 キャラクターといたしましては考えておりませんが、いろんなキャラクター、東鶴山に「りおっち」がございますが、りおっちが備前市の観光大使にして手を挙げるということであれば、それが観光大使ということで備前市を売っていくという格好になっていくと思います。ですから、キャラクターとしては考えておりませんが、それ以外に関しましては、観光大使として広く広めていきたいというふうに考えております。

○掛谷委員 ここで瀬戸内も市が誕生して10周年で市民や企業、団体による積極的な活用を呼びかけているということで、これをつくったわけですね、市が。それであれば企業とか団体等々に呼びかけて、どうぞこれを使ってください、PRにどうぞっていうことになっているので、今のは全く逆なような形になっています。私が言いたいのは備前市としてもうキャラクター、ゆるキャラみたいなものを募集したり、本格的につくるということは結局今は考えていないということですね。そこをはっきりしてもらいたい。

○下山まち営業課長 ゆるキャラといたしましては、考えておりません。

○掛谷委員 考えていないということなので、もうそれ以上言いませんけれども、全国サミットというのがありまして、毎年やっています。ちょっとおくれませすけれども、まだまだこのブームは続くと思います。そういう意味で、考えていただきたいということだけ言っておきます。

○田原委員長 ほかに観光についてございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないですか、ちょっと委員長かわってください。

〔委員長交代〕

○川崎副委員長 委員長を交代します。

○田原委員長 お手元へ配付いたしましたこのつづりの分です。これは観光というより、ことしは瀬戸内海国立公園の80周年ということでいろいろな行事が行われておりますが、これは瀬戸内海国立公園の管理計画という形でつくられているものです。当局は持っておられるかどうか知りませんが、これだけ分厚いものですが、その一部をコピーして配らせてもらいました。

その中に、備前市長もこの計画をつくるのに参加しているわけです。そういう中で備前市の計画という形でいっぱい載っているんですよ。特に、日生諸島、夕立受山を含めた日生諸島の景観その他、鹿久居島、鴻島、いっぱい載っているんですね。これは平成17年からスタートして19年3月31日でパブリックコメントを終わって、19年4月ぐらいから配られとんかな。この現物を当局は持つとられますか。

○下山まち営業課長 確認しておりますし、インターネットにもこれは出ていると思います。

○田原委員長 知つとられるということで、それを前提にお尋ねしますが、その中で46ページ、施設計画及び公園事業執行状況一覧ということで、執行业業名と未執行业業名があります。一番下の欄に鷲羽山博物展示施設は執行されているんですが、鹿久居島中央部博物展示施設は執行されていないと載っているんですけども、備前市が鹿久居島中央部にどんな博物館展示場をつくらうとされておるのか、それから県が25億円を投入した海洋牧場計画がありました。それとの連動をどのように考えられておるのか。また、まほろばの今後の活用をどのように考えておられるのか。そのあたりについて、鹿久居の中央部に宿舎をつくるというような話も、計画も出ているわけです。恐らく、このようなものをつくるについては、作業部会と称して市の担当者も何人かはその幹事会というか、そういうところへ具体的な計画案を持って最終的にまとめられていると思います。その辺をどういうふうに捉えて、今後どのようにしていかれようとしておるのか、お尋ねします。

○下山まち営業課長 鹿久居島中央部博物展示施設であります。これまず1番にこの全体計画をつくっておるのが国でございまして、国の環境のほうと、それから県の自然保護の担当のところというふうにお聞きしております。策定した段階で、どういうふうに出るのかという部分で、どういったかということ、私も当時観光におりませんので、どういう格好で事務局として入ったかというのかわかりませんので、そういう部分に関しましては、以後調査いたしましてどういったかというのかわかりませんので、そういう部分に関しましては、以後調査いたしましてどう

それから、まほろばでございまして、まほろばは管理自体を今、管理運営も含めまして、日生総合支所をお願いしておりますので、総合支所長のほうから御回答を願えればと思いますし、海洋牧場に関しましては産業振興課長がおられますので、その辺を回答、ただそれに関しまして、連携をいたしましてそれをベースにした観光という部分では、当然連携をとりながらいろんな部分での、含めての誘致というのは、私どもが考えていかなければならないというふうには考えて

おります。

○星尾日生総合支所長 まほろばについて、今のこの計画の中での云々ということは、ちょっと私も承知しておりませんが、今後まほろばの管理運営につきましては、現在そういった連携につきましては、架橋活用後の施策の会議を持っております。その中でも今現在検討していただいておりますので、その辺がまとまり次第、報告なりできると思っております。

○丸尾産業振興課長 海洋牧場についてでございますが、この海洋牧場も今の計画とどういう関連があるのか、私もその詳しいことはわかりませんが、この海洋牧場は平成25年度に県事業として工事が終わりました、今年度からモニタリング調査によっていろんな調査をしていくというふうに聞いております。今言われた関連については、詳しいことはわかりません。

○田原委員長 下山課長から市の観光の中心はまちづくりであると、こういうようなことをおっしゃられました。そういう中で、先ほどお示した環境庁のやっている計画は、これは国の計画であると、こういうような答弁ですけれども、そういう中で今鹿久居島にあるまほろばを、例えば中央園舎、宿舎というような考え方に置きかえる方法もあるでしょうし、海洋牧場とあわせた、たびたび川崎委員も私も提案している水族館的な施設ということを考えてはどうかという提案もさせていただいてるわけですが、国が考えとる、県も考えとるという、こういうようなええ資料があるわけですね。それをうまく市がアピールすれば、向こうが事業やってくれて、当然若干備前市の負担金もありますよ。そういうような発想の中で考えていく必要があるんじゃないかという形で、あえてこれを資料として出させてもらったんです。私も、こんな大々的なことがインターネットで流れているというのもつい最近まで知らなかったんですけども、こういうものがあって、それを当局が知っておりながらそれに手をつけていないというのは、やはりいささか努力不足じゃないかと、いずれにしろ金がないと言うんじゃないから、国や県にしてもらったらええし、それに対して私たちはこういう計画があるんじゃないかと、国は何でしてくれんのかという努力は必要じゃないかと思いますが、いかがですか。

○下山まち営業課長 委員言われることがごもっともだというふうには思いますが、今日生総合支所長が言いましたように、橋がかかってからこれからは、非常にやはり有効な鹿久居島というようなものがございますから、ここに未執行で載っていなくても、今後そういう必要なもの、それから観光地となるべきものというのは、やはり新しく開発と申しますか、新しく考えていかなければならない事項だと思っております。今政策監のほうで検討している分も含めまして、今後はそれを検討していくというふうにご考えております。この内容につきましては、その詳しい内容がこういう未執行の事業名として上がっているだけで、どういうものか、どこまで考えとったかという資料までがございませんので、それはやはりうちのほうも今までどういう格好になっていたのか、国、県も含めまして資料を取り寄せなりして考えていかないといけないかなというふうにご考えております。

○田原委員長 8ページに瀬戸内海国立公園（岡山県地域）区域及び公園計画図、日生諸島として細かい字で見えんぐらいっぱい書いているんですよ、大多府、頭島、鶴島含めて、頭島含め

て。やはり、こういう上位機関の計画を精査して、それをどういうふうによく活用するかという点もぜひ考えていただきたいという問題提起をしておきたいと思いますので、お願いします。

それで、まほろばのことについて、焼けた竪穴式住居の復元、もう半年したら橋がかかる中で、それに至る道路の整備等がどうなっておるのか心配ですが、そのあたりどんなんですか。

○星尾日生総合支所長 まほろばの竪穴式住居の焼失、建てかえということですけど、6月議会の一般質問で、市長が今後検討してまいりたいと思いますとお答えしております。それに基づきまして、現在先ほども申しました架橋の供用開始後の政策監の会議の中で検討はしていただいとるところでございます。ですから、一応建てかえの場合、一般質問の中で約500万円保険金として出るというようなことを踏まえて、政策監の中で今現在検討していただいとるところでございます。

それから、管理道につきまして、委員御承知のとおり、国有林の中からまほろばまで約3キロ近くでございます。その整備について、車が通れるような状況にしようと思いと、かなりの経費が必要と考えております。その中で、現在私のほうで思っているのが、林道沿いに駐車スペースをお借りして、そこから指定管理者のほうでピストン輸送するようなことを現時点では考えております。指定管理者にもそのようなことを検討するように伝えているところでございます。

○田原委員長 とにかく、架橋完成後半年なんですよ。その辺ちゃんとできておるのか、市長は常にプロジェクトチームを部内でちゃんとやっていますというような答弁をずっと、西岡市長の当時からそういう答弁ばかりですわ。ところが、現実架橋完成後半年を迎えてそういうような状況なので、それであえてこの公園計画というのも引っ張り出して、あんたたちは国ともこういう約束をしとるんじやから、それをうまく利用して、補助制度なんかも利用できるんじやないかと、先ほど遊歩道の話もあるわけですから、そういうような形でそれを整備する方法もあるんじやないのということですよ。それは、プロジェクトチームでそれこそ下山課長が今言われたような、当然そんなことは知とってやとんじやということかもしれんけども、私はもう一步踏み込んで財源確保もできるんじやないかと思いといます。もうそれぐらいにしときますわ。問題提起です。しっかり頑張ってください。

それから、ここに備前いとこ再発見、岡山めぐり備前のまち、備前地域まちおこし隊といところのつくったパンフレットがあるんですね。営業課長は、見られたことありますね。

○下山まち営業課長 ございます。

○田原委員長 備前地域まちおこし隊というのは、これ想像ですけども、恐らく備前地区、それとも香登地区の人たちの団体ですか、これはどういう団体ですか。

○下山まち営業課長 これ備前県民局のほうでやっている事業でございまして、私どものはそのまままちおこし隊にも入っておりません。案内もございませんので、詳しい内容はわかりません。

○田原委員長 課長、これ見られての感想は。

○下山まち営業課長 備前市全域ではないなというふうに感じました。

○田原委員長 私もこれ見て、海と緑と炎のまち、備前エリア。県がつくったならぜひ県のほう

へもおかしいじゃないのと言うべきですよ。これ備前焼だけじゃない。ほんなんやったら、備前焼だけのパンフレットにしたらいい。海と緑まで、海のことについて料理もなければ何にもないじゃない。やはり県がつくったんだったら、こういうものはもってのほかだ。もう少し売るんなら備前全体を売るようなパンフレットにせんといかんのじゃないかな。これだけ見たら、備前市はこれかなと思う。やはり、気がついたら抗議するなり、そういう配慮もしてほしいという要求はするべきだと思いますが、いかがですか。

○下山まち営業課長 私どもも、ゲラの段階で見させていただいておりませんし、それを見て感じ取った部分がございますので、当然県民局にはどうなっているのという問い合わせもしておりますし、それからそれを見られた方も、備前市これだけでいいのというような御意見もいただきまして、抗議と申しますか、経緯、経過を言って、今後もしそういう部分であるならば、公平にどうか、いろんな部分で載せていただきたいというお話はさせていただいております。

○田原委員長 私が日生出身だからというて、公平にどうのこうのというんじゃない。備前市を売るには、もう一つ配慮が欠けるんじゃないかというふうに思います。その辺、地域的なことを言うんじゃないんです。備前市が今何を売ろうとしよんかということの中で、先ほどのあえて瀬戸内海80周年のことを含めた海の売りも必要じゃないかという捉え方で考えたら、この辺もやはりしっかり課長、頑張ってください。要望しときます。

○川崎副委員長 交代です。

〔委員長交代〕

○田原委員長 以上、観光についてほかの委員さん、いかがですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

なければ、次に移りますが、よろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

***** 定住対策及び公共交通についての調査研究 *****

それでは、レジュメの1、定住対策及び公共交通についての調査研究、公共交通についてを議題といたします。

地域公共交通計画の改訂版も配られておりますが、ございませんか。

○掛谷委員 ざっと見ただけでじっくり見てないので、何とも言えないですけど、要するにこの改定案、それから最近出たそちらの案もありますけど、結局のところこの公共交通体系は、最終版のものはいつ公表されて、いつごろ実施していくというようになっているのか。

それと、内容について、デマンド、ルートバスとかタクシーとかいろんな手段がありましたね。いろんなことが言われていましたが、それは一体どういうものになっていくのか、わかる範囲で教えていただきたいと思います。

○下山まち営業課長 公共交通に関しましては、最終版というのは、私はないというふうに考えております。やはり、時代を含めまして、改定、直していかないといけないというふうに考えておりますので、最終形というのはやはりないのかなと、時代に応じて変えていかないといけない

というふうな認識でございます。

○掛谷委員 そのとおりなんですよ、もちろん。ですけど、いつかは新しい交通体系がスタートするわけでしょう。そういう意味で、今時点の最終版というか、これでやりますよというものは、いつ公表されて、実施というものはいつできるのかという具体的なことを聞きよんです。まだそんなことはわかったらんと言え、それはそれでいいんですわ。

○下山まち営業課長 今年度中にはお示しをしたいというふうに考えておりました、来年4月、再来年4月という節目節目である部分、公表して、運行したいというふうには考えております。

○掛谷委員 こちらのスケジュールを見ましても、確かに平成26年度については検討とか、そういうところが多くて、27年度から本格運行、実証運行とか、ほかにもありますけれども、本年度はそういう意味では今課長がおっしゃられたことになろうかと実際思います。ただ、ちょっと私が思うのは、これはもう2、3年も前から、西岡市長時代もそういうようなのをやってきて、新市長になってもこのことはずっと取り組んできたわけですね。今か今かとこのように、いいものをつくらなきゃいけないので、焦ってつくってみてもしょうがない、この計画どおりで言えば来年度からということになろうかと思いますが、我々議員としては、今年度は何か試行的にやるところぐらいは出てくるんじゃないかと思っていたんですけど、それもないんですね。

○下山まち営業課長 試行は考えておりました、今考えておりますのは、南北線といたしまして、吉永から伊里のマルナカ、木生ですね。マルナカまでを通す線を実証実験するように検討中でございます。最終的に考えておりますのが本線、基幹になる、これにも出ておりますが本線と枝線と申しますか、そういう部分での連携をしっかりと密にとっていくと、それからハブになる場所を数カ所決めて、そこを経由してというふうな考えも持っており、考えております。ただ、一番大きな違いと申しますと、今土曜日、日曜日というのが減便になっていると思います。今の市長のお考えは、交通弱者と言われる老人、それから子供も含めまして、日曜日とかに観光客の方が非常に困ると、本数が少ないと。観光客もということで、土日の減便をなくすような方策も今検討しているところぐらいで、御勘弁願えればと思います。

○掛谷委員 大体考えがわかったといえればわかりまして、やってください。試行が成功すれば、本格的になると思います。しっかりといいものをつくっていただければ、それでいいかなと思います。ただ、住民のニーズというのは、日に日に高まっておりますし、いつか、いつかということは、住民はいつも我々議員にも問いかけてきます。我々議員も執行部に対して、こういうところはもうちょっと考えてほしいと申し上げていきますので、よろしく願いいたします。

○下山まち営業課長 エールありがとうございます。

頑張ってますが、実はこれ路線だけでなく、バス事業者、それから運転手の問題、車両の問題、それからタクシー事業者との兼ね合い、非常にやはりシビアな問題がございます。なかなかやりたくてもできないと、それからバスに関しましても宇野バスさんと日生運輸さん、営業圏がございますので、なかなか乗り入れの部分でも厳しいものもございますので、ぜひ委員さんにも御協力いただきまして、最終的にいいものを提示できればというふうに考えております

ので、今後とも御協力よろしくお願ひしたいと思います。

○川崎副委員長 体系は今後綿密に詰めていただいて、視察したところでは、私の印象ではスマートシティという考え方で、幹線はバスだけでも、時間帯によってバスを走らせる必要がなければ民間タクシー会社がそれぞれの定期バスの停留所に、タクシーがカバーして回るような、それでうまくきめ細かくやっている実例があるので、それなんかすごくいいんじゃないかと思ひながら、もう視察して3年も5年もたちながら、全然そういう実施がうまくバス会社とタクシー会社、いろいろあるでしょう、そりゃあ民間同士の営利目的の会社ですからね。それをうまく仲介するのが市の役割ではないかと思ひますので、そういう方向もぜひ体系的には要望しときます。

私は、料金体系はどうなのか常々疑問を持っております。というのが、1市2町が合併する中で、橋が完成した後どうなるのかわかりませんが、現行では大多府島からであろうが、頭島、鹿久居であろうが、65歳以上は片道が100円と。ところが、同じ日生町民という意識でいえば、市営バスに乗りますと500メートルだろうが1キロだろうが一律200円かかるということで、病院とか買い物に行っても往復400円と、これは不公平ではないかという住民からの問題提起を受けております。実際、この地図を見る限り、島は船で時間はかかるけど、距離にすればほんの四、五キロと、四、五キロだから100円でいけるのかどうかかわかりませんが、頭島までバス路線になる可能性がありますし、その辺バスかタクシーかよくわかりませんが、その他決して旧日生だけじゃなく、吉永とかそういうところを含めて、やはり距離に比例して時間の問題とかでどういう考え方をしているのか、そこの交通体系とともに全市民に平等になるような公共交通料金とはどういうものかというものは検討されているのかどうか、お聞きしたいと思ひます。

○下山まち営業課長 スマートシティでタクシー事業者云々の話もございました。私どもも、今大型バスではなくて、10人乗りのような、普通免許で乗れるような小さなバスを路線バスにも配置しようというふうに考えておまして、その車両も含めました検討を今しているというのが現状でございまして、それをタクシー事業者にお任せするというのも一つの案でございまして、当然、それも今考えておまして、今現行で考えておるといふふうにお伝えいたします。

料金についてでございますが、今乗りかえますと、また200円要るといふような状況でございます。1日乗り放題、500円というものもございまして、今回はそういう料金体系は、乗りかえても乗り継ぎ券というふうなものを出して次へ行くと、だからハブになる停留所と申しますか、乗りかえ場所というふうなものを設けさせていただいて片上からどこかへ行くと、行くにしても乗り継ぎ券を出せばその料金で行くということで、一律の料金ということで今検討しているというのが現状でございまして、金額等も含めまして検討を今しているというお答えで御勘弁をお願ひしたいと思います。

○川崎副委員長 勉強不足で申しわけないけど、この地図を見る限り、高齢化率のところですけど、諸島が51%で高齢化率が一番高いということ、続いて日生39、東鶴山40.5と、この辺が非常に高いところで、高齢者の利用率が高まるころだろうと思ひますが、率直に言っ

て吉永の三国地区からもし備前市役所に出てくるとしたら、今の料金ならどれぐらいかかっただけですか。特別そういう65歳とか70歳以上の高齢者についての配慮が料金体系にされているのかを含めて、ちょっと説明をお願いします。

○下山まち営業課長 年齢による金額の差はございません。もし、吉永からここまで来られて帰られるということでしたら、吉永の奥ですね、八塔寺のほうから来られるということは乗りかえが必要になってきますので、そうなりますと今であれば、200円ということになりますから、そういう方は1日券の500円というのを買われるようでございます。

○川崎副委員長 それは、往復乗れるわけですか。

○下山まち営業課長 もう1日、日生運輸のバスであれば、どこの路線に乗っても変わらないというようなものでございます。

○川崎副委員長 500円ということであれば、そんなに高くないなという印象もあるんですけど、やはり高齢者の方、特に岡山市などは無料で何かぐるり何とかかんとかというて、駅前から中心的な商業地を含めて、病院とか、ワンコイン、100円か、あれ。そういう感じでやられていますので、やはりできるだけ地域格差のないような料金体系、どういうのがいいのか、やはり先進例なんかを例にとりて、500円でも本当に高齢者の年金生活者にとっては、ちょっとした買い物に行ってもそれだけかかるということになれば、おかげで代だけ要するというようなこともありますので、少しやはり市が援助するなりして、100円、200円のレベルになる方向でぜひ、日生の島は今距離は短いけれども時間がかかるという中で、非常に配慮された先例がありますので、決してそれが優遇されとるという考え方ではなく、やはり全体として高齢者の交通の便がない方はより安い料金で病院なり、買い物ができる配慮というのは必要じゃないかなと思います。もう一度、その辺の考え方をお聞きしときます。

○下山まち営業課長 公費の援助をして公共バスを走らせるということであれば、当然お客様も大いにいいことに決まっておりますので、当然それも含めまして検討させていただきたいと思っております。

〔委員長交代〕

○川崎副委員長 かわります。

○田原委員長 今島の話が出ました。そういうような優遇策等を含めて、逆にもう具体的なことです。橋がかかった後、市長は航路はそのまま存続するんだと、こういうような考え方のようなんですけども、ということは当然、島へ公共交通としてのバスの乗り入れはないというふうにとめとめるんですが、そういうような受けとめ方でよろしいのでしょうか。

○下山まち営業課長 二重投資と申しますか、バスと船と両方というのは、今現在は考えておりません。

○田原委員長 その辺が、先ほどの100円、100円、往復200円で買い物にも行ける、病院にも行けるんだということで、頭島の車に乗れない人もそのまま船を動かしてもらいたいという要望があるんでしょう。それが恒久的なものなのか、また橋のかからない大多府と鴻島のた

ちは、殊さら頭島に寄らんでも買い物、病院はじかに本島へ行ったらいいんだという希望、ただ診療所の問題がどうなるのか。診療所が頭島にあるのなら、やはり頭島へもつけてほしいという希望もあると思うんですけど、そういうような総合的な判断の中で来年4月からどうするのかというような協議はどこがされとんでしょうか。

○下山まち営業課長 病院に関しましては、どうかというのはこちらでちょっとお諮りはできませんけども、あくまでも今船のほうはそういう航路を回られた業者さんがおられるわけですから、そこを圧迫すると申しますか、言い方はちょっとおかしいかもわかりませんが、バスを走らせるということではいけないということで、基本的には今現在はバスの運行は考えておりませんが、当然ニーズもありましょうし、そういう部分での要望は今後検討して皆さんの要望に沿うような形で考えていかないといけないというふうには考えておりますし、そういう全体的に交通体系というものは、あくまでもまち営業課で考えておりますので、もしそういう診療所云々に関しましては、また政策監のグループ、公共交通に関しましての政策監のグループがございまして、そういうところと連携をとりながら検討していきたいというふうには考えております。

○田原委員長 今、いみじくもバスを走らすと船の営業に圧迫をかけると、こういうようなことが言葉として出たんですけども、当然橋がかかるということは、交通量もやはり陸上交通ということでシフトされるわけですが、当然そこに補償というような問題も出てくると思うんですよ。そういう微妙な段階でしょうから、我々に発表できないことはできないとしても、少なくとも島の方は、バスは橋がかかったら来てくれるもんだというような認識があるようですよ。その辺も含めて、やはり航路権を持っておられる業者さんとしっかりと本音の話をして、オープンまでに結論を出すべきだというふうに思います。これは、課長が答弁できることではないと思いますけども、そういうような意見が委員会にもあるということをごひ上司にも伝えていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○高橋まちづくり部長 さきの一般質問でも、そのあたりの経緯について委員長のほうからの御質問があったと思います。基本的には、今の航路を維持しながら事業者の人と調整していくという考え方に変わりはございません。非常にデリケートな部分もあります。そうした中で、今後事業者とよく調整をするとともに、やはり島の皆さんにある程度決定し次第、早急に周知する必要があるかと考えておりますので、きょうの委員会の話はよく市長のほうにも伝えておきます。

○田原委員長 そういう中で、先ほどの話を繰り返しますが、片道100円、往復200円で頭島の人も病院へ行ったり買い物ができるという前提があるわけですが、今ね。それから、大多府、鴻島の人たちは、診療所が今までどおり頭島にあるという前提の一つの物の考え方だと思うんですよ。その辺もしっかり整理をして、アンケートをとるならとる、地元の意見を聞くというようなことをしないと、橋がかかって後、もう殊さら頭島に診療所は要りませんよというて、いつまで診療所を頭島に置くのか、恐らく何年も置かんかもしれんし、そうなったときに大多府、鴻島の方は、殊さら頭島に寄る必要はなくなる。ほんなら、頭島に船をつけずに、大多府と鴻島の方は、本島との航路だけ考えたらいいんじゃないかというような気もするんです。その辺も総合的

にしっかり考えて、住民の皆さんに説明なり了解をもらわんと後で混乱しますし、特に営業権の問題はいろいろあるわけですから、やはりあと半年、しっかりみんなが喜ばれる料金体制なり交通体系をしっかり考えてください。所管の委員会としてもぜひお願いをしたいと思います。今委員の発言ですけど。

○川崎副委員長 答え求めますか。

○田原委員長 いや、もういいです。
かわりましょう。

[委員長交代]

それじゃあ、委員長として復帰しました。

先ほど委員としての意見、個人的な意見かもしれませんが、委員会としての意見というふう
に受けとめていただいても結構です。その辺、やはりトラブルのないようにしっかりしてください。

じゃあ、次移ります。

○山本（恒）委員 今の交通体系ですけど、もう話聞きよったらいやらしいような、もう日生じ
ゃ頭島じゃ、何じゃかんじゃばあ言うて、そうでなしに、やはり吉永のほうにもおるんじゃし、
人口比である程度はそりゃ考えて、バス出したりいろいろしよんじゃろうけど、寺山なんかでも
全然、人が何人かおるけど、そんな人なんかは車代かタクシー賃というんか、何か知らんけど、
1人当たり年齢で何万円かというて、5万円ほどか何か出たり、そりゃあ島やこうでも四、五年
前に70歳から65歳まで年を下げたりしよることが、もう地域によって力関係じゃろうけど、
ある程度政策監もおるんじゃから、ぴっちりした答えを出すようにせなんだらいけん。ぐずぐ
ず、ぎょうさんひっさ言うたから、そこをよう下げて安うする言うたりするんじゃなしに、もう
ちょっと市民の誰が聞いたってまともな話みたいにいせなんだら、政策監はおらんか。ようそれを
部長は言うとかようにせなんだらいけんわ。そんな意見もあるというて。だから、自分のところ
だけようならええに決まっとるけど、ある程度備前市じゃから、備前市なりにせなんだらい
けん。ちょっと答えを頂戴。

○高橋まちづくり部長 やはり、地域的な格差とか、そういうふうなものももしあるのであれ
ば、是正する必要があると思います。今回、公共交通を見直す新たな計画を策定する中で、やは
り皆さんが納得のできる公平性が保てるような形を基本に検討してまいりたいと思います。

○田原委員長 そういうような意見もあるわけですから、いつまでも特定の優遇策というのは考
えられないんだということをしっかり島の人にも話をしながら、将来の公共交通はこうあるべき
だというものを示して、その案を協議していただきたいというふうに思います。

***** 企業立地についての調査研究 *****

じゃあ、次へ移りますが、企業立地、企業誘致についてを議題といたします。

執行部から、まず何かないですか。その後の動き等について。

○下山まち営業課長 前回の委員会でも地図等も含めまして、買収の面積を変える云々というお話

から後の分をさせていただいたと思います。それにつきまして進展がございましたので、御報告をさせていただきたいと思います。

前の資料がないからちょっとわかりにくいかもしれませんが、もともと2.7ヘクタという面積だったと思いますが、単価の提示をいたしまして、全地権者の合意が得られまして、同意書が全員そろいました。それが先週の金曜日でございます。単価で申しますと、1平米当たり1万1,000円ということで御提示をさせていただきまして、地権者の方に了承をいただきました。よりまして、当初平米1万円という予算をいただいておりますので、1,000円分上がってきております。それは、鑑定等によりまして、どうしてもアップしたということでございますので、9月で補正をさせていただきます。と同時に、この土地の取得に関しましての同意をいただきたいと、その分の議案を提出する予定で今現在進めております。

やっともともとの計画の土地の御了承を得られたという状況でございますので、周りをもうちょっと有効利用しようということで前回お願いしたと思いますが、その分も含めまして今後同意が得られるように今現在交渉中でございます。9月の議会までには何とか形として議案提出できるかなということでございます。

香登については、以上でございます。

それから、委員の方の中では御存じじゃない方がおられるかもいたしません。日生の浜山に県の干拓地がございまして、現在2区画でございますが、残っている箇所がございまして、2カ所とも今県のほうにお聞き申すと、交渉中だということでどっちも今やっていると、それで片っぱのほうは水産加工の会社のほうが希望されとって、水質検査を実際されていると。グラウンドゴルフで今住民の方が使われるところの部分でございます。その分、水産加工でございますので、海水を利用されるということで、海水が取水できるかどうかのボーリング調査をやらせておまして、近々結果が出ると。それによりまして、来るか来ないかを定めるんだということで、県のほうからお聞きしておまして、備前市もぜひ日生のカキなんかを利用して水産加工されるという業者でございますので、漁協さんのほうともタイアップをされているというふうにお聞きしておりますので、そういう部分はぜひ企業立地になるように進めていきたいというふうに考えております。

それから、香登につきましても、やっ皆様同意が得られましたので、今までも若干でございますが、こういう備前市には計画があるよということで、企業のほうに営業活動しておったわけでございますが、面積的な部分も含めまして出てきましたので、企業立地に向けてしっかり備前市に来ていただくような誘致のほうを頑張っていくということでございまして、早くも何件かの企業とは接触いたしまして、好感触を得ている企業もあるというところで御勘弁願えればと思います。

○川崎副委員長 伊部・浦伊部土地区画整理事業の資料に図面が出とんですけど、企業誘致に関連して、なぜ香登のほうで購入して埋め立てまでして企業誘致をしようと、確かに大きな工場が来とんで、すぐ隣だということがあるんでしょけれど、だったら私この地図見て、品川白煉瓦

岡山工場第2工場のすぐ西隣のこの広い土地なんか何やかんや言わずに、どういう単価がよくわかりませんが、企業誘致ということで買収できるところから一遍に買う金がなければ年次計画で1ヘクタール、2ヘクタールずつ買い取って企業誘致すりゃあ一番いい場所ではないのかと。そしてもっと西隣は、住宅地とか商業地とか、逆にもうこういう今狭っ苦しい市役所の本庁なんかも移転まで含めた、そういう壮大な計画というんですか、より将来のことでしょうけど、その一歩としては、私はここまで品川が工場があるのに、何でこの議論なりが放置されて、いけないというのは、やはり過去40年前の計画が足かせになって、そういう簡単に土地利用計画を変更するというわけにいけないんですかね。香登以上に何か立派な企業誘致場所ではないかなと、私らよその人間ということではないけど、地域が違うので感覚がよくわかりませんが、隣の品川見る限り、立派な工業用地ではないかなというふうに感じとんですけど。単価的な問題含めて、そういう何かネックがあるんですか、ちょっとお聞きします。

○平田まち計画課長 前回の委員会でもお答えをしたと思いますが、御指摘の箇所につきましては、土地区画整理事業の計画区域内ということで、計画を国のほうに提出をしまして都市計画決定がなされております。ですので、この計画を解除して白紙に戻さないと、そこを買収して土地造成をして企業誘致をするということができないという現状になっております。ですので、まずは地権者の方の意向ですとか、地区の方のいろんな要望もお聞きして現状を踏まえた上で、どういった整備をするのか、そうした検討をこれから進めていくという状況でございますので、それによって結果として、区画整理はもう無理だということになれば、白紙に戻すための手続を踏んで、それから実際にその計画を白紙に戻すことができれば、その時点で用地買収をして企業誘致というのも一つの方法として考えていくことになるのではないかと思います。いずれにしても、検討からそうした手続を踏んでいくということになれば、かなり時間がかかるということになってしまいますので、そういった意味で今の時期、ちょうど企業さんのほうも立地のニーズが高まっているところなので、早急に土地を確保したいという、そういう状況の中で香登の部分には白羽の矢が立ったということでございます。

○川崎副委員長 いろいろあるんでしょうけど、40年前のある意味では余りにも壮大な計画のために、旧備前の力ではどうしようもないという状態を放置してきた行政側の責任か、住民側の責任かよくわかりませんが、いまだにアンケートを見ても、はっきり1つにまとまるような回答じゃないですね、これ見ると。だったら、それを打破できるとしたら、このままではずると土地単価も下がっていて、投資資金がなかなかできないというような先ほどの説明もあったし、そういう意味ではこういう大不況の長期不況の中だからこそ、自治体を中心になってやはり小規模でも、何も大企業の出ていくような大企業に来てもらわんでも、県内とか地元企業でしっかり備前市のために貢献しよう、雇用を確保しよう、やはりそういう元気の出てくるような企業に出てもらうためにも、ここらは早く、一部解除ということができるとかできないのか、今の説明ではもう一つ私には理解できないんですけど、一旦白紙に戻して部分的にするという方法しかないんですかね。一部解除とかというような柔軟なやり方ができないのかと言いたいですけど

どね。どんなですか、その辺含めて。

○平田まち計画課長 区域を全部解除するか、一部を解除するか、そのあたりの方針もいろんな選択肢があるということで、いずれも可能ではあると思います。ただ、いずれにしても、都市計画決定を打っている区域ということで、部分解除するにせよ、県を通して国への協議という手続が必要になってきますので、やはりどういった方法をとってもおのずと時間はかかってこようかと思えます。いずれにしても、まずどういった整備手法であそこを整備していくのか、そういうことをよく検討して方針を決めた上で手続を踏んでいくということになってこようかと思えます。私どもも、それこそ40年も塩漬けになってきた部分をそのままいつまでも放置をしようとというわけにはいきませんので、何とかしたいという思いの中で昨年度から地権者の方の意向を聞くという、そういった部分に着手をしているところでございますので、これからもしっかり進めていきたいとは思いますが、やはりある程度の時間が必要になってくるという、そういう部分については御理解いただきたいと思えます。

○川崎副委員長 私は、今の安倍内閣の企業だけが自由に活動できるような減税を含めた優遇策というのは、余り賛成できませんけど、逆に今そういう国の姿勢なら、やはり企業を誘致してその地域の活性化を図るといのは、国全体では安倍内閣が責任持っとんですけど、地域でいえば、今国のそういう流れに沿うという意味では、解除もより短期間でできて、やらないとこういうこと、人口全体が減つとんのに、これ壮大な都市計画を図面描いたって、どうせできんだろうというようなアンケート結果を見て、土地所有者が思っているんだな、本音はそこだろうなというふうにししか理解してないんですよ。だからこそ、40年塩漬けのまま来ているし、このままでいいという、要らん世話だと。やはり、そうじゃなくて、全体利益のためにそれなりに魅力ある単価で、1万1,000円が魅力なのか、これ3万円にしないと香登と違って購入できないのか、その辺はちょっとようわかりませんが、やはり人口が減る中で住宅市街化するだけが能じゃないというのは、もう誰もが認めとんじゃないですか。これ以上人口流出、3万8,000維持するためには何が必要って、市街化も必要だけど、工場が来れば、自然的に雇用が生まれれば、より近いところに住宅地を求める従業員が出てくるわけですからね。もう少し何か流暢に、30年か50年先を目指したような議論しか執行部の平田課長の答弁なんか聞いていたら、のんびりしとるなとか、できりゃあええし、できなければ次の課長が検討しますで終わりという感じがしとります。早う解除して、やはり香登でできたんだったら、こなんかもそういう方向がいいんじゃないかとかというふうな積極的なものを住民所有者にやはり訴えないと、適当にアンケートとって適当に回答してグラフつくるだけが仕事だというふうにししか私には思えませんが。もう少し、今浜山が売れるというんだったら、やはり土地が安くて今こそ設備投資して、元気に営業活動やろうという企業があるなら、こなんかももう最適地だと、人口も密集しとるし、労働者の集めやすい、地理的にも非常に便利がええと、港も近いとか、あらゆる条件がそろつとるにもかかわらず、市街化ということでできないというのは、私は大きな矛盾じゃないかと思えますので、早く解除して積極的に、住民も喜ぶ、所有者も喜ぶ計画に変えていただきたいと

いうことを要望します。

○平田まち計画課長 厳しいお言葉ですけども、ただ私どもも何とかしたいという思いがあるからこそ、昨年度から予算も取って手をつけているわけでございます。それまで40年間、ほとんど放置をされてきたと、これは逆に何か内輪のことで悪く言うようで申しわけないですけども、逆に過去において手をつけずに放置してきたと、見過ごしてきたという中で、40年もたちながら手がつけられなかったその難しいことに何とか取り組んでいこうと思いでやっているわけでございます。決して、30年、50年先のことだという、悠長に構えているつもりもございませんし、私どもの現役のときに何とかしたいという思いがあるからこそ取り組んでいるわけでございますので、そういう点については御理解いただきたいと思います。何とか頑張っていきたいと思えます。

○田原委員長 ありがとうございます。

先ほど2つの現状報告もいただいたわけですが、その辺のことも含めて質疑がありましたら。

○掛谷委員 企業誘致のところちょっとお話を。

香登のところは、本当私散歩しよるところでようわかっとなんですけど、1つは緑色のところについては、まだこれは買い付けができてないということで、今後やられるということでもいいんですかね。確認です。

○下山まち営業課長 前回で御報告させていただいた緑の部分でございますが、今現在赤いところが全部できましたので、今折衝中ございまして、一部オーケーな方もおられますし、できれば今月中には決着をつけたいというふうに職員頑張っておりますので、御協力をお願いします。

○掛谷委員 これは全部で3.7ヘクタールと、私もようわからんのですが、ここは企業団地造成事業となっていますね。ということは、団地ですので、1社なら団地とは言わんと思うんですね。そういう意味で、これは来る企業によつての、大きな会社であればもう1つか2つというところでしょうけど、そういった、相手があるもんだから一概には言えません。団地とつけているというのはどういうお考えなのか、ちょっと教えてください。

○下山まち営業課長 昨年、ことしから特別会計を起こしましてやっているというのは御承知かと思いますが、特別会計をするときに御説明したと思いますが、あくまでも今までのやり方でやるんじゃなくて、オーダーメイド方式、あくまでも団地としてもう2区画ないし3区画を区切ってそれを売るというんじゃなくて、企業を呼んできたときに何ぼ欲しいんだということで、企業のほうとの、向こうの予算もございましょうから、それに合わせて面積的に割り振りしようと、それから造成に関しましても簡易な造成で、あと残りは自分らでやっていただこうと、ちょっとでもお譲りする単価自体を安くしようということで、そういうコンセプトで備前市は始めております。ですから、団地ということで最低でも2つ、3.7ヘクでございますから、最低でも2つ、うまくいけば3つぐらいを誘致できればいいかなというふうな現在私どもはもくろみを持っております。

○掛谷委員 これは、最近の山陽新聞に奈義町の企業進出が出ておりまして、工業団地2区画が

まだ売れ残って、実質無料で分譲すると、こういう衝撃的なことが出ておりました。今の備前市の企業誘致の優遇策というのは揺るがんのんですか。それとも、誘致のためには優遇措置というものはひょっとして変えていくのかどうか。ここでは、もう実質的に、奈義町は県と町で無料で多区画を出すというような、衝撃的なのが出ていますので、それを踏まえてどういうふうなお考えがあるか、ちょっと。

○下山まち営業課長 実は、今まで備前市が取得というんですか、土地を購入して造成までして売ったという実績はございません。あくまでも、御協力をしてというケースだと思います。そういう想定のもとに、今奨励金というのはつくっておりました。初めてここで備前市もやっていくということで、やはりほかの自治体に負けんように企業を誘致したいというふうに検討しております。その中で、やはり市営の住宅用地ですね、それから県営の分ですね。県が持つとる、あくまでも公共団体が持つとるそういう土地を誘致して来ていただいたところには、今まで以上な手厚い施策をしたいなというふうに考えておまして、今現在検討しております。なおかつ、副委員長が議会のときにもいつも言われます水道料金でございます。それも含めまして進出企業並びに既存の企業のほうも手厚いような施策を来年度からはできるように、今現在知恵を絞って職員で頑張っておりますので、応援してやってください。よろしく願いいたします。

○尾川委員 一般質問にもあったんですけど、パナソニックのその後はどうなっとんのですかね。何かうわさだけ、一般質問もかなり遠慮して質問されとったんですけど、その後もまだ全然進展なしで、まだ公表はできんですか。

○下山まち営業課長 議会でも市長が答弁したと思いますが、パナソニックさんと契約をしたとかということは一切ないというふうにお聞きしております。といいますのが、ああいうものが出まして、パナソニックのほうにも確認いたしましたところ、それはないと、まだ従業員の方も残っておられるということで、残務整理をされているという状況でございますので、もし新しい企業が決まるだとかというときには、お声もかけてほしいということをお願いをしておりますが、以前にも申したと思いますが、企業に関しましてはやはり誘致、来られるということになりますと、ライバル企業等の問題もございまして、非常に隠されると、調印までは非常に隠密でやれるという状況でございますので、私どもも慎重に動きたいというふうに考えております。

○尾川委員 ということは、市は何ら関係してないと、あくまでも当事者同士、当事者間での話で、全く関与していないということですか。

○下山まち営業課長 全く関与していないといえましょうことになるかと思えます。当然、いい企業があって、こういう面積的な部分で市内に進出したいという情報も入ってまいりますから、そういうときにはこういう企業でこういう土地があるんだけどということで、民有地のほうも紹介していると、ホームページにも上がっておるのを確認していただければよろしいかと思えます。そういうあっせんに関しましてはしておりますので、だからパナソニックさん自体をそのままほっとくということもございませんし、いい情報があればこういう企業さんがあるんだけどという御紹介等も随時しております。もし、パナソニックのほうから市に対しましての協力要請があれば、

もう当然そのままというわけにはいきませんので、私どもも全力で頑張っていきたいというふうに思っております。

○尾川委員 要するに、市民はある程度情報を持つとるわけですよ。その点をはっきりきちっとしてほしいんですわ。それ以上の表現せんけど。わかる、意味は。

○下山まち営業課長 市民の方も多分、確信はなくてうわさでと、もし契約しているのであれば、もう絶対会社のほうも公表するはずですから、それは私ども確信を持ってお答えもできます。ただ、そういううわさがあると、そういう動きがあるというのは、あるのかもしれませんが。そこまでしか、申しわけございません。

○尾川委員 ちょっとそのずれがあるから、要するに市民に説明するときに、余り踏み込んだ説明をせんようにしてほしいということなんよ。それ以上は表現せんけど。そういう、誰々が言うたとかと言いよるわけですわ。

○田原委員長 我々も何とか企業を誘致するのに、議会としてもお手伝いしたいという気持ちが皆さんあるわけですよ。そういう中で、市民がいろいろな情報を持つておるわけですけど、先ほどの答弁の中でやはり公表はできないけども、市も前向きに検討しとる段階だとか、もう一步のところまで来とんでもうしばらく待ってくれとか言える範囲までぐらいの話はしてもらったほうがいいんです。市長が会議所でしゃべったとかなんとかというような話がやはり出てくるわけですよ、我々のところへも。それで確認をされるわけですよ。その辺のこともあるんじゃないかと思うんですよ。全くないのか、いや、市も仲介の労をとってもう一息のところなのでしばらくとかなんとか、その辺の言える範囲はぜひお願いしたいというふうに私も思います。どうですか。

○高橋まちづくり部長 決して、我々も隠そうとか、そういうつもりはありません。差し支えない範囲で情報の提供はしていきたいと思えますし、かえって間違ったうわさで、それが先行していくというのいかなものかと思えます。ただ、先ほどの松下さんの件でいいますと、ある程度業者間、企業間では動きがあります。そうした中で、市がお互いがいい話になるような形、仲介の労をとってある程度スムーズに行くようにという部分で何らかのかかわりといいますか、協力ができて、そのことによって話が進んでいくのであれば、当然中に入らなくちゃならないと思っておりますし、先ほど担当課長も言いましたけども、そのような気持ちでおります。ちょっと話の見えにくい部分もあります。今回でいいますと、いろんな話が先行したのも事実、私も一般質問等でありまして確認もしとりますけども、基本的には我々は何とかああいう形で、長年放置されることのないような形で速やかに次の企業さんが入っていくように、そういうつもりで間に立って協力をしていくという気持ちでおりますので、そういうことで理解していただきたいと思えますし、今後は情報提供できるような状況になりましたら、早く委員会等で報告していきたいと思えます。

○田原委員長 しっかり頑張ってください。それで、必要があれば、議会として企業側に陳情とか要望に行く用意もないではないので、その必要な出番があれば議長を中心に当委員会としても企業側へお願いに行く方法もあると思えますので、いい時期に適切な情報をお願いしておきま

す。

ほかにございませんか。

○下山まち営業課長 先ほど、掛谷委員への答弁で新しくやるということで奨励金を頑張っていくと申しました。それは、土地を0にするというのではございませんから、その辺ひょっと間違えられて、0にするようにするというふうに思われてもあれなんで、あくまでも特会でやりますので、造成費を含めた費用で買っていただきまして、それ以降雇用も含めました奨励金で頑張っていきたいというふうに考えております。

○田原委員長 ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、川鉄がゴルフ場をつくろうという計画がありましたな、頓挫した。その全体の当時の計画と土地、それからどういう計画でどういう形で頓挫したのかという資料を委員会としてもお願いしときますので、また見せてください。

今市の物になっとんでしょう。何でこれを言うかということ、企業誘致の市に話ししたら、あの土地があるんですというて言われて、何言うとならというて、その話でもう途切れるんだというのを進出企業の方から聞いた経過があるので、私土地の全体のことを、隣町だったもので詳しいことは知りませんので、また見せてください。

○下山まち営業課長 計画自体は残ってないかもわからないですよ。市有地の土地は、もう当然わかっとなりますので、それをインターネットには載せておりますし、面積的な部分とか言われたときには、うちのほうも紹介しているような現状でございますので、どれだけの土地を持っていて、どのぐらいあるんだというような資料を出してほしいというのであれば、それは提出することは可能でございます。

○田原委員長 お願いします。

○掛谷委員 僕も昔研究したことがあるんですけど、いわゆる標高、僕が聞いたのはもうアクセスが大変だと、山手にあつてそれから平原だというようなことを記憶しとんですよ。だから、交通アクセスのところと、どれぐらいの標高にあるのか、入り口から入ったら山が本当にあるのか、平地なのか、そういうものをわかればちょっと入れてもらいたい。そこが最初の入り口のところで問題になっていたという記憶がありますので、ちょっと入れといてください、わかりやすく。

○下山まち営業課長 お金をかけない範囲で出せるものであれば、どのぐらいの標高で、横からの断面でもできれば一番いいんですけど、その辺がちょっと難しいので、今そこまでのものがあるかないかちょっとわかりませんが、出すようにいたします。

○田原委員長 よろしいか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

以上で予定をしておりました調査研究事項は終わりますが、あと次回の委員会の開催について、8月5日を予定いたしております。それで、議会報告会のテーマを中心としてこの間皆さん

と協議しました財政状況について、住宅リフォーム助成事業について、有害鳥獣対策について、それから先ほどの土地区画整理事業についてということを一応調査事項のテーマにしたいと思っております。そのほか、何かこれはということがあれば。今じゃなくてもいいですけど、早目に私なり事務局のほうへお届けいただければと思います。よろしいか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、以上で委員会を閉会しますが、行政視察についてちょっと相談したいので、委員さんだけ残っていただければと思います。

以上で総務産業委員会を閉会いたします。

午前11時58分 閉会